

令和7年度 3学年授業改善プラン

大田区立矢口小学校

1. 昨年度の授業改善プランの検証

- 【国語】知識及び技能の習得のため、既習内容は他教科でも取り入れた。また自分の思いや考えをまとめる力に個人差があったため、筋道を立てて考える一斉指導を行ったあとに、個別指導を通して底上げを図った。
- 【社会】地図や図表などから情報を読み取る力の個人差が大きい。資料の掲示方法を工夫したり、児童同士で話し合う場面をより多く設定したりすることで、情報を読み取る学習活動を充実させることができた。
- 【算数】基本的な問題の習熟の個人差が大きい。ため、教員間で児童のつまづきについて共有した。児童が苦手意識をもつ傾向にある単元でもスムーズに学習に入ることができ、日常生活と関連させて、興味関心を引く導入を取り入れた。
- 【理科】矢口自然農園を中心とした自然と触れ合う体験的な活動を取り入れることで、植物や生物の体の仕組みや育ち方に関心をもち、主体的な取組につなげることができた。その一方で体験活動を知識として取り入れることのできる児童とそうでない児童の差が大きい。

2. 各教科の授業改善プラン

【国語】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆特に漢字の書き取りが苦手な児童が多くいる。 ○既習の漢字をできるだけ普段から使うよう指導する。また合格点を決めて小テストや50問漢字テストの再テストを随時実施していく。漢字の宿題は間違えがあれば訂正、練習させていく。	◆自分の思いや考えをまとめる力に個人差がある。 ○物事に対して筋道を立てて考えられるように日頃から指導する。また考えがまとめるように振り返りの書き方を話型化する。他教科でも話型を活用し慣れさせていく。	◆自分の思いや考えを伝え合おうとする態度に差がある。意欲的な児童が大半いるが、学力や集中力が続かない児童がいる。 ○グループやトリオの編成を工夫する。また、ノートからも思いや考えを見取っていく。

【社会】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆楽しく調べているものの、知識や経験の差から指導内容の定着に個人差が大きい。 ○授業者が知識の構造図を把握した上で、児童の生活経験と関連付け、児童自身が「自分事」として学ぶことができる教材提示をする。	◆地図や図表などから情報を読み取る力の個人差が大きい。 ○資料の加工や掲示の工夫をし、児童同士での気づきを話し合う場面を多く設定する。	◆児童の地域に対する知識や生活経験の差が学習意欲に影響している。 ○より児童自身の経験と関連付けることができるように、動画などの教材の工夫や地域教材の有効的な活用をする。

【算数】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆基本的な問題の習熟の個人差が大きい。特に九九の習得が完	◆数学的な表現を用いて、説明する力の個人差が大きい。時	◆苦手意識が強い児童が一定数存在する。

壁でない児童が一定数いる。 ○習熟度別学習で、児童のつまづきを把握して、教員間で共有し、各コースの指導の改善に繋げる。また九九や2学年までの既習内容を振り返る際は、タブレットを活用して個々の習熟度に応じた問題に継続的に取り組み、知識及び技能の定着を図る。	計やものさしの読み取りはできるが、応用の問題では考えをもてない児童も多数いる。 ○自分の考えを文・図・式などを用いて整理し、友達に伝えたり、全体に発表したりする活動を多く取り入れていく。また自分の考えがまとめるように、振り返りの書き方を話型化する。	○単元の導入の仕方を工夫したり、具体物を用いたり、タブレットを活用したりして、日常生活と算数との関わりにも目を向けさせていく。また、導入に力を入れ、児童が各単元で興味関心をもちながら学習を進められるように工夫して取り組んでいく。
--	---	--

【理科】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆自然体験活動を知識として取り入れることができる児童と、結び付かない児童との差が大きい。 ○タブレットドリルを活用し、繰り返し取り組むことで、学んだことを知識として定着させていく。	◆観察や実験をしたことに対して考察を書くことが苦手と感じる児童がいる。 ○考察を「分かったこと、発見」「不思議」「次回やりたいこと」と項目に分けて書くことにより具体的に表現できるようにする。	◆虫や花に対して苦手意識があり、実際に触れることへの抵抗感のある児童がいる。 ○矢口自然農園に行き、実際に触れたり、詳しく観察したりする経験を通して、植物が育つ喜びや、虫について発見する喜びを実感できる授業を展開する。

【音楽】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆歌唱技能・リコーダー実技ともに学習した範囲内では概ね身につけている。 ○児童同士による協働的学習により技能習得を増やすことで、個々の技能を伸ばす。	◆思いや意図をもって表現を考える経験が少ない。 ○曲想に関する各要素の学習機会を増やし、実際の演奏に生かしていく。	◆よい音楽に触れる機会が少なかった。 ○ICT機器を用いるとともに、様々な演奏を多く鑑賞させていく。

【図画工作】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆材料と道具の正しい使い方の基礎を定着させる必要がある。 ○けがを起こさないように材料や道具の正しい使い方を丁寧に指導し、定着させていく。	◆材料の多様な使い方に不安や悩みをもつ児童が多い。 ○様々な材料を扱う活動を通して、児童同士の協働的な学びから発想力を養っていく。	◆作品を創造することに対して意欲を高めていくことや、児童への支援が必要。 ○机間指導、個別指導の計画を綿密に立て、作品への思いや見通しをもつことができるように個に応じた支援を行う。

【体育】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆運動経験の少なさからか、ハードルのジャンプやボールのキ	◆自己の課題を把握し、解決の仕方を見付け、意図的に取り	◆できていれば満足してしまい、より良くしようとする意

ャッチなどへの恐怖心・苦手意識がある。 ○運動量の確保を意識した授業を展開し、その活動に多くチャレンジできる機会を増やす。	組むことができる児童が少ない。 ○グループ内でお互いを見合い、課題を見付け、助け合いながら運動できるようにする。	識に個人差がある。 ○グループ内での話し合いや学習カードを用い、運動のポイントやコツを確認し、設定した「めあて」に向けて、運動に取り組んでいくようにする。
---	--	---